

# どこにもひかりが

## ■ 楽曲データ

歌詞：榎野八重子 作詞

楽曲：矢田部宏 作曲

発表：仏教婦人会総連盟 1966年

初演：「仏教婦人会総連盟総会」 1966年4月16日

初出：『めぐみ』第46号 浄土真宗本願寺派仏教婦人会総連盟事務局 1966年6月

管理番号：M0388

## ■ 創作の経緯

第2回世界仏教婦人会大会（1965年、ニューヨーク）において、会員が愛唱できる歌を作ってほしいという要望が出たことを受け、制作された仏教讃歌2曲のうちの1曲（もう1曲は《心ゆたかに》）。歌詞は公募による。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第4巻収録

底資料：『第一回宗教教育研究会 聖歌』 本願寺派学校連合会

比較資料1：『佛教讃歌』 浄土真宗本願寺派本願寺出版社 2014年

比較資料2：作曲者自身による確認

校訂の詳細：特記事項なし

## ■ 解説

### ◆ 詞について

作詞の榎野八重子（1937～）は、やさしくわかりやすい言葉で、常日頃の聞法生活からかもし出された心情をよく表わしています。阿弥陀如来の慈光のなかに、心やすらいで生きている作詞者の喜びが伝わってくるようです。

### ◆ 作曲者について

矢田部宏（1934～2013?）は、京都府生まれ。京都市立音楽短期大学（現・京都市立芸術大学音楽学部）を卒業後、平安女学院短期大学（現・平安女学院大学短期大学部）教授を務めました。仏教讃歌では、《しってるね》《数珠の歌》などの作品を遺しています。

## ◆歌い方について

- ①前半（1～34小節目）は3拍子です。1小節を1拍と大きくとらえ、さらに8小節をひとまとまりに感じて、音楽の流れを大切にしましょう。
- ②歌詞には、対句的な表現がみられます（1行目と2行目など）。歌う際の参考にしてください。
- ③7小節目のリズムが流れてしまわないように、気を付けましょう。また、「ファ」→「シb」の跳躍する音程にも注意しましょう。
- ④21～28小節目は、短調になります。リズムが細かくなりますので、発音を明瞭に。
- ⑤29小節目は、「ファ」→「レ」の音程を正確に。
- ⑥4拍子の部分（35～38小節目）は、少しゆっくりと、言葉を語るように、落ち着いて歌いましょう。
- ⑦38小節目のフェルマータの後は、はじめのテンポに戻ります。拍子とテンポの変化に気を付けて、練習してください。

## ◆楽譜・音源

CD『響流十方』に収録されています。

二部合唱で歌う場合は、『讃歌集 二部合唱』第1巻掲載の楽譜をお使いください。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 32（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第157号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.